

今年度の研究について

講師 藤縄 清先生

埼玉工業大学講師

東京都小学校特別活動研究会顧問（元会長）

○研究主題

互いの思いや考えを伝え合い、進んで関わる児童の育成

○児童の実態 ※昨年度アンケート分析より

- ・言葉で自分の気持ちを伝えるのが苦手、自信がない
- ・友達と気持ちよくかかわるかかわり方がわからない児童がいる
- ・友達のことはわかろうとしているが、自分のことを分かってもらえていないと感じている

○目指す児童像

- ・自分の考えや意見をもち、それを相手に伝えたり相手の多様な考えを尊重して聞いたりして話し合いやコミュニケーションができる児童。
- ・友だちのよさを認め、相手を思いやって仲よく遊んだり、協力して活動したりできる児童。
- ・活動や遊びに自分から友達を誘い、自分自身を振り返って行動を改善していける児童。

○研究仮説

特別活動において、望ましい人間関係の形成を目指した活動の場を設定し、友達とのかかわり方や社会的スキルを身に付けながら、友達と協力して学級や学校生活を作っていくことにより、思いや考えを伝え合って進んで関わり合える児童が育成できるであろう。

○特活の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う

○研究の教科領域

以上の実態と、研究主題を達成するために、本年度の研究授業については、特別活動（学級活動）（１）「学級や学校の生活づくり」と（２）「日常の生活や学習への適応および健康安全について」のうち、（２）にしぼってを行うことにした。

（２）で扱う内容ア～キの中から、望ましい人間関係の形成を目指した学びのサイクルを踏まえて活動の実践とする。（気づき→話し合い→行動→振り返り）また、（１）は研究授業としては行わないが、研究主題にせまるため、特活の校内年間計画を参考に、片寄なく計画的に実践する。

○主題に迫るための研究の取り組み

- ・共通の観点での振り返りカード（自分の頑張り、友だちの頑張り）を必ず実施する
- ・話し方聞き方名人の掲示
- ・S S Tを活動に取り入れる
- ・ハートフルデーにおける関わり合い活動の実践
- ・教員プレゼンテーションでの具体的な指導方法の学び（学級会の進め方、S S Tの事例）
- ・校内の特活年間計画を見直し、計画的で系統的な実践を行う
- ・アンケートによる児童の実態把握
- ・各学年の取り組みの共有（分科会・全体会）
- ・研究授業以外の場での実践で児童がどのように変容したのかも見取る

○常時活動

- ・昨年度からの継続。
- ・研究授業の際には、常時活動の取り組みで身についた部分も見取っていく。
 - ① ハートフル→SST などの関わりをねらった活動を毎学期実施する（方法論はプレゼンで紹介）
 - ② よどよんキッズ→関わり合いができたかどうか、振り返りカードを毎学期一度かく（ハートフルの時間を活用）
 - ③ 学習形態→「はい 立つ です」などの共通理解
 - ④ 話し方・聞き方の話型→掲示物
 - ⑤ 話し合いにおけるハンドサイン→掲示

○第一回研究授業 6月8日（水）6年2組

「家庭学習の工夫について考えよう」（希望や目標をもって生きる態度の育成）